

多摩市立図書館本館再整備
基本計画検討委員会資料

武蔵野プレイス
～新しいタイプの公共施設を目指して～

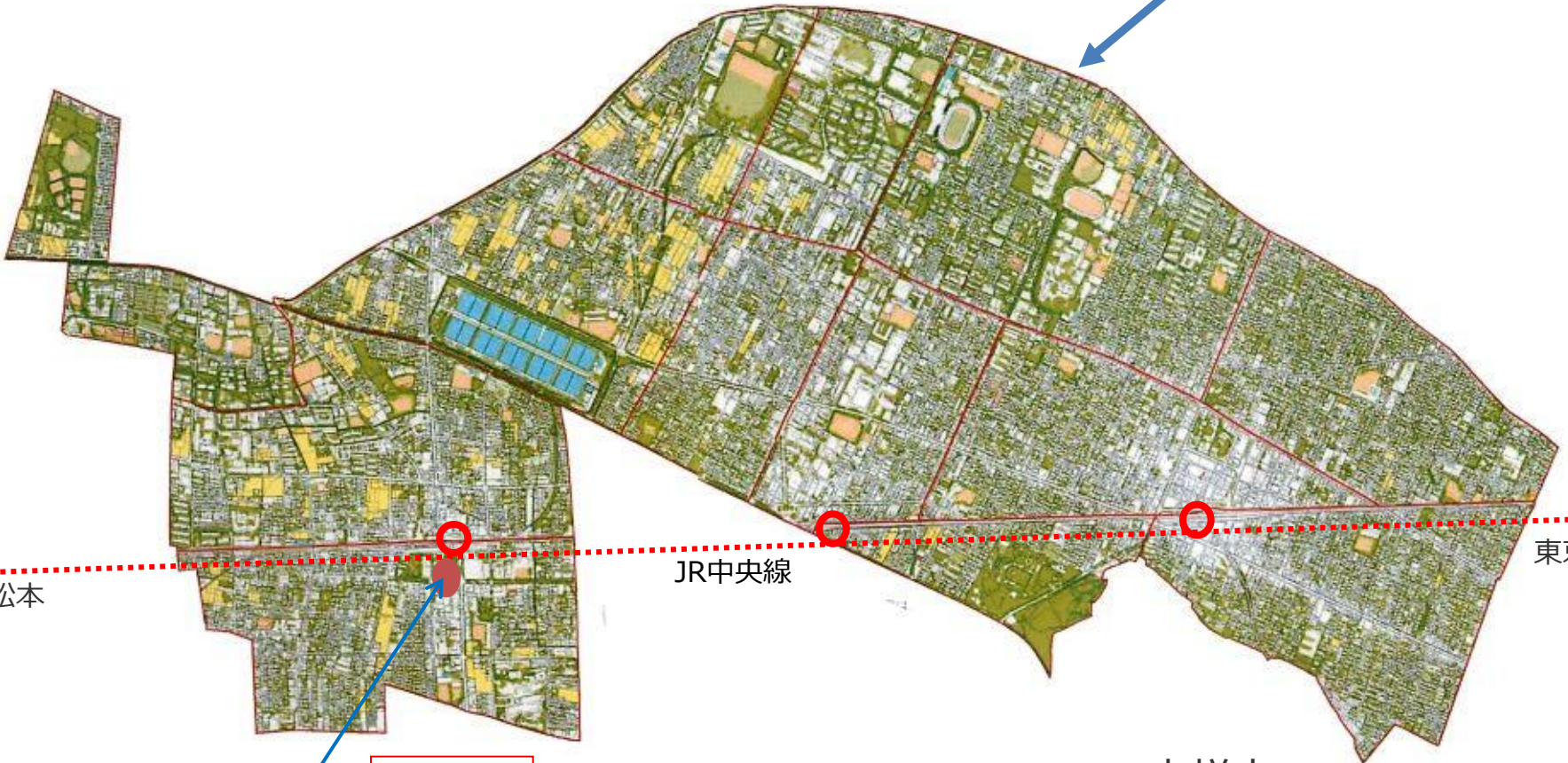


公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団
前田 洋一

武蔵野市

面積：10.98km²

人口：14万5000人



←松本

JR中央線

東京→

武蔵境

三鷹

吉祥寺

武蔵野フレイズ



「武蔵野市立 ひと・まち・情報 創造館 武蔵野フレイズ」について

- ・ **2011年7月開館**
- ・ **地上4階、地下3階**
- ・ **延床面積 9,800㎡**
- ・ **開館時間 9:30~22:00 (水曜日休館)**
- ・ **年間来館者数 195万人 (2016年度)**
- ・ **機能⇒図書館、市民活動支援、
青少年活動支援、生涯学習支援**
- ・ **管理運営⇒公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団**

武蔵境駅前のまちづくり⇒連続立体交差事業＋農水省食糧倉庫跡地利用

昔開かずの踏切
ハイイン白樺

連続立体交差事業

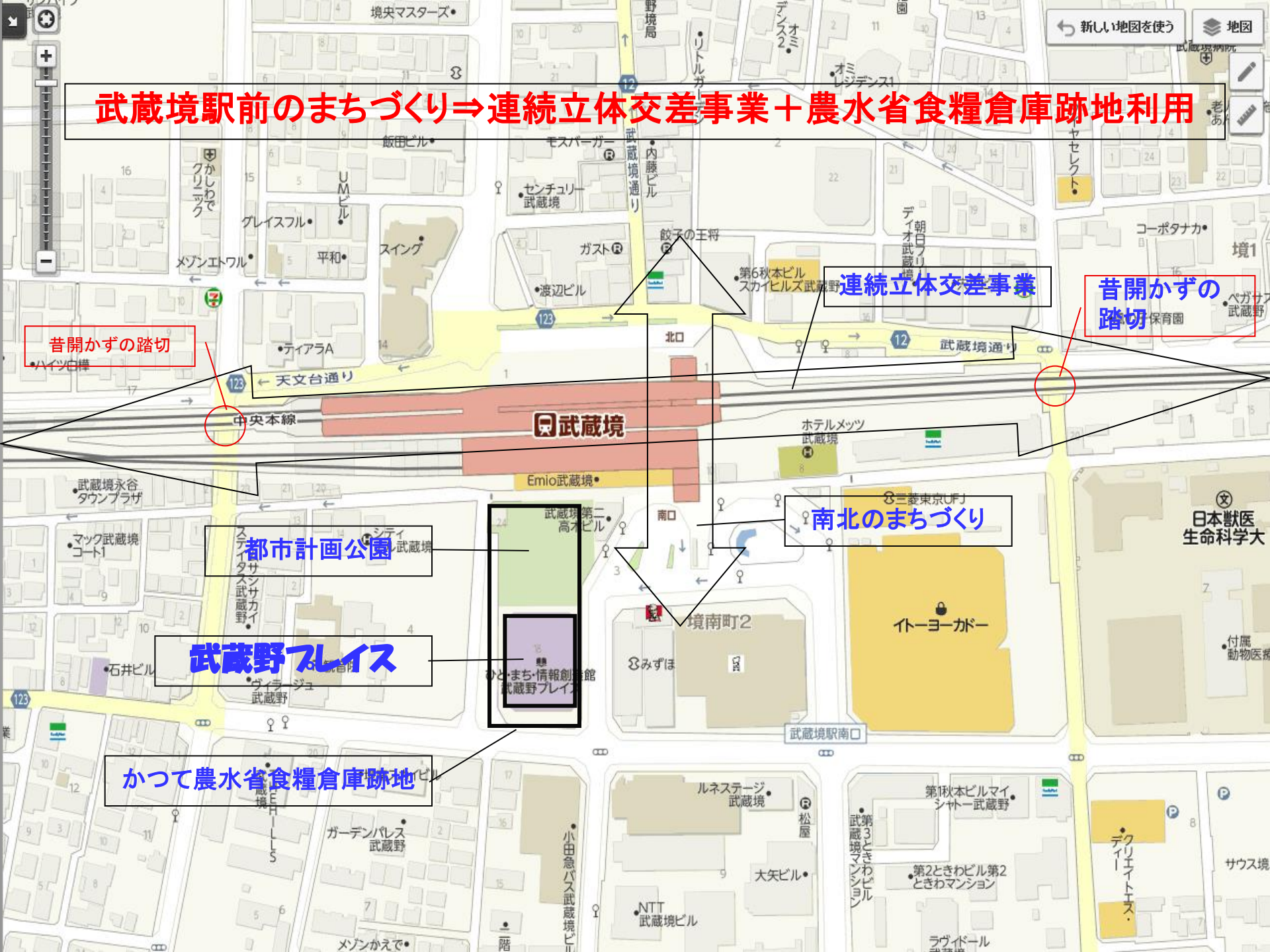
昔開かずの踏切
ベガサテ
武蔵野
保育園

都市計画公園
武蔵野

武蔵野プレイス
武蔵野

南北のまちづくり
武蔵野

かつて農水省食糧倉庫跡地
武蔵野



超ロングスパンの計画（経過）

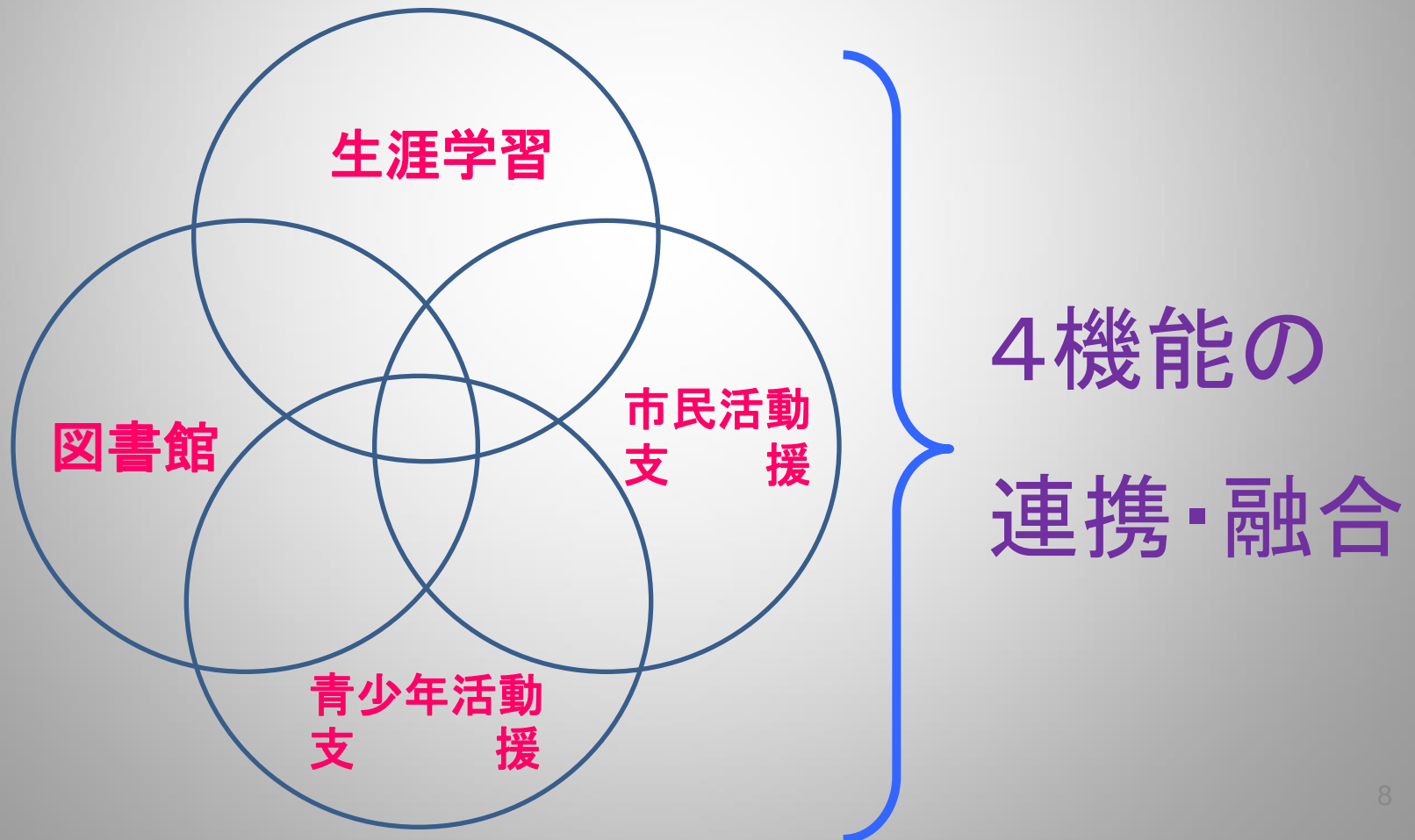
- 昭和48年 東京食糧事務所に土地払い下げの要望書提出
(この間色々ありました)
- 平成 9年 市議会農水省跡地利用計画検討特別委員会設置
- 平成10年 食糧庁に土地の「利用計画書」を提出、承認される
その後土地取得
- 平成12年 アイデアコンペ実施
- 平成13年 市第三期長期計画第二次調整計画において公共施設建設の方針を示す
- 平成13年 新公共施設基本計画策定委員会設置
- 平成15年 武蔵境新公共施設設計プロポーザルの公募を実施。202人の提案を受ける
- 平成16年 設計者決定
同年設計者も委員とした「農水省跡地利用建設基本計画策定委員会」設置

平成17年	基本設計完了
同年	市長交代
平成18年	市長が施設の規模等の見直し案を提示⇒市議会が拒否(平成18年度一般会計予算否決(暫定予算に))
同年	「武蔵野プレイス(仮称)専門家会議」設置 ⇒暫定予算5月末で終了、6月から通常予算
平成19年	専門家会議最終報告書を市議会特別委員会に報告
同年	基本設計の修正に着手(規模はほぼ元に戻る) ⇒設計ポリシーを変更
平成20年	「武蔵野プレイス(仮称)管理運営基本方針」策定
同年	施設名称が「武蔵野市立ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイスと決定
平成21年	施設建設着手
平成23年	「武蔵野プレイス管理運営基本指針」策定
同年	開館

『武蔵野プレイス』とは

《新しいタイプの公共施設

⇒複合機能施設⇒



複合機能施設

様々な施設機能の集合体として一つの建物を形成する



新しいタイプの公共施設



市民サービスの向上

新しいタイプの公共施設

《複数の機能が集まるメリットを最大限生かす》

- ⇒ 多様なニーズに応える(駅前という利便性の高い場所を有効活用)
- ⇒ 個々の機能を超えたこれまでにない新たな価値を持つ施設
- ⇒ 固定的なサービスを提供する従来型の公共施設の枠組みを超える



諸機能の並置から連携・融合へ



付加価値の付いた情報・サービス

付加価値の付いた情報・サービスを提供するには

●ハード⇒ブラウジング



相互に作用

★ソフト⇒一体的管理・運営

様々な仕掛けが必要

一体的管理・運営

指定管理者制度の採用

↳ 公益財団法人武蔵野生涯学習
振興事業団（市の財政援助
出資団体）



機能間の有機的連携



図書館員結構活躍しています

なぜ、今「プレイスカ」？

《施設を設置する上での基本的な認識》

① 価値観の多様化、急速な情報化

↳ 自己の責任で主体的に判断し行動する

↳ ・主体的な学習機会の提供

・(地域の)課題を解決する上での判断材料の提供とその活動を支援する仕組みの構築


② 社会的な機能の多くの部分のデジタル化

↳ コミュニティからの遊離した状況

↳ 人々が集い、交流ができる場としての公共施設が持つ役割が以前にも増して重要

施設名称『ひと・まち・情報 創造』 が表すもの

図書館、生涯学習センター、市民活動センター、青少年センターなどといったこれまでの公共施設の類型を超えて、複数の機能を積極的に融合させ、図書や活動を通して、人とひとが出会い、それぞれが持っている情報(知識や経験)を共有・交換しながら、知的な創造や交流を生み出し、地域社会(まち)の活性化を深められるような活動支援型の公共施設を目指しています


プレイス⇒「場」の提供

ブラウジング

年齢も目的も異なる利用者



来館目的外の活動や情報

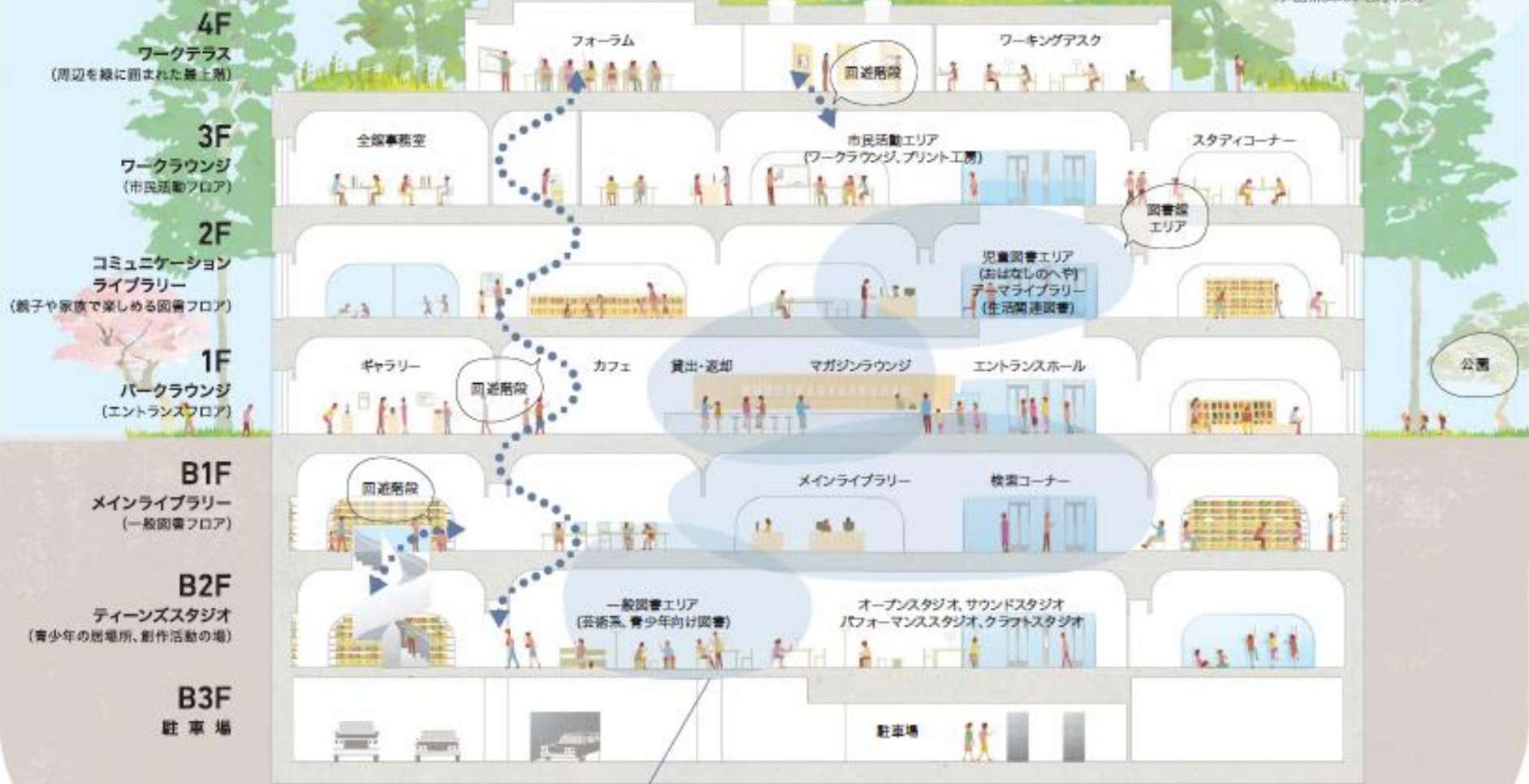


気づき・出会い・交流

武蔵野プレイス フloor構成

環境への配慮

- ・屋上をほぼ100%緑化
- ・建物半分を地下にすることで熱負荷を軽減
- ・雨水利用
- ・身体にやさしい快適な輻射冷暖房
- ・水蓄熱深夜電力利用



図書館機能は施設の基幹機能として他の機能と連携を図ります

生涯学習

市民相互の連携を促し、地域の教育機関、企業、施設と連携した、柔軟な生涯学習事業を展開し、生涯学習活動を支援

- ・コンソーシアム型(外部団体等との連携)事業の実施
- ・武蔵野地域自由大学、その他市からの移管事業の運営
- ・情報交換の場や情報の提供
- ・「武蔵野地域映像アーカイブシステム」の構築

市民活動支援

市民活動に携わる人々が互いの立場や考え方を尊重しながら交流し、開かれたネットワークを形成することを支援

- ・市民活動に関わる情報の提供、蓄積、編集、発信
- ・市民活動団体相互の交流を促進するためのネットワーキング機能
- ・団体の経営やマネジメントに関する支援
- ・組織の運営の仕方等についての相談、コンサルティング機能

青少年活動支援

青少年の『居場所』をキーワードに、さまざまな居方(過ごし方)ができる場を設け、青少年が活動を通して社会とのかかわりを持つことができるように支援

- ・情報交換の場や情報の提供
- ・講習、ワークショップの等の開催
- ・事業企画への利用者の参画

図書館

施設の基幹機能として他の機能と連携を図り、さまざまなライフステージに対応した滞在型図書館をめざします。

武蔵野市立図書館一般統計

平成28年度

	中央	吉祥寺	プレイス	合計
蔵書数	634,215	100,965	183,538	918,718
貸出数（図書）	857,833	469,500	1,079,406	2,406,739
貸出数（その他）	117,467	56,656	76,762	244,792
受付予約件数	34,787	28,885	73,288	613,600

(WEB予約
476,643を含む)

市民一人当たりの蔵書冊数(図書)	6.35
市民一人当たりの貸出冊数(図書)	16.64
市民一人当たりの図書館費(円)	3,150
市民一人当たりの図書購入費(円)	449

プレイスでの いくつかの重要なキーワード

- ①「目的利用」から「状況利用」へ
- ②新たなターゲット
- ③にぎやかな図書館
- ④貸出、返却などの自動化
- ⑤雑誌タイトル数の充実（600タイトル）
- ⑥敷居をさらに低く
- ⑦青少年へのアプローチ


「目的地的利用」から 「状況的利用」へ

「目的地的利用」⇒あらかじめ明確な目的をもって施設を訪れること

「状況的利用」⇒その状況に応じて施設を訪れたり、ふらっと立ち寄ること


新たなターゲット

もちろん全世代がターゲットだが、
従来公共施設にあまり縁のなかった
人たち（ビジネスワーカー）にも
是非利用していただきたい



カフェは第5の
機能

1F カフェ&雑誌架



図書を持ち込み
可
夜はアルコールも
可



40席、
400円／4時間
各席⇒照明、電源
、仕切り、ハイバッ
クチェア、もちろんP
C使用可の席もあり
ます。

4F デッキテラス

4F ワーキングデスク



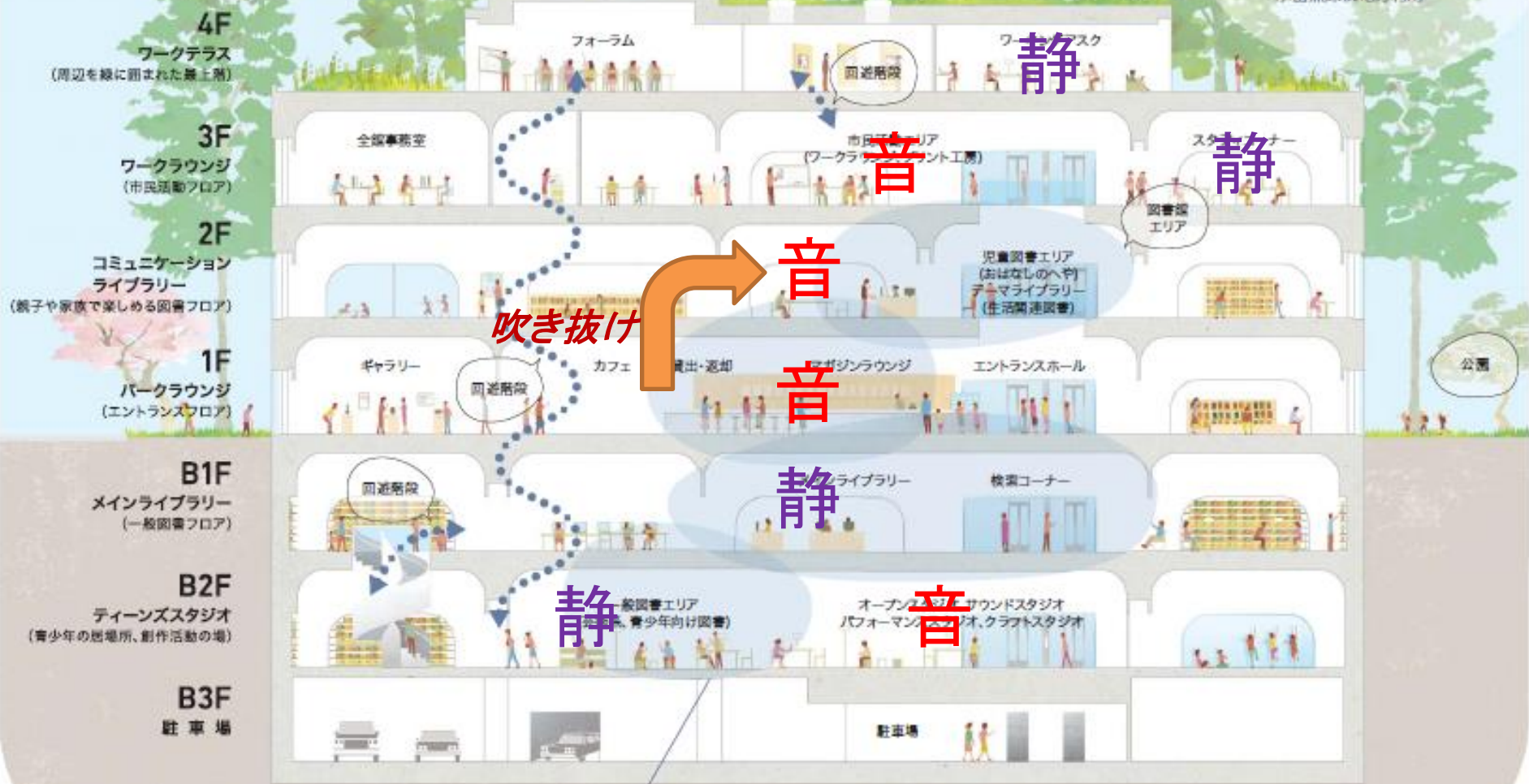
にぎやかな図書館

静寂な場所を確保しつつも「にぎやかな場所」があってもいいのでは

武蔵野プレイス フloor構成

環境への配慮

- ・屋上をほぼ100%緑化
- ・建物半分を地下にすることで熱負荷を軽減
- ・雨水利用
- ・身体にやさしい快適な輻射冷暖房
- ・水蓄熱深夜電力利用



吹き抜け

音

音

静

静

音

静

静

図書館機能は施設の基幹機能として他の機能と連携を図ります

2F ↔ 1Fの吹き抜け

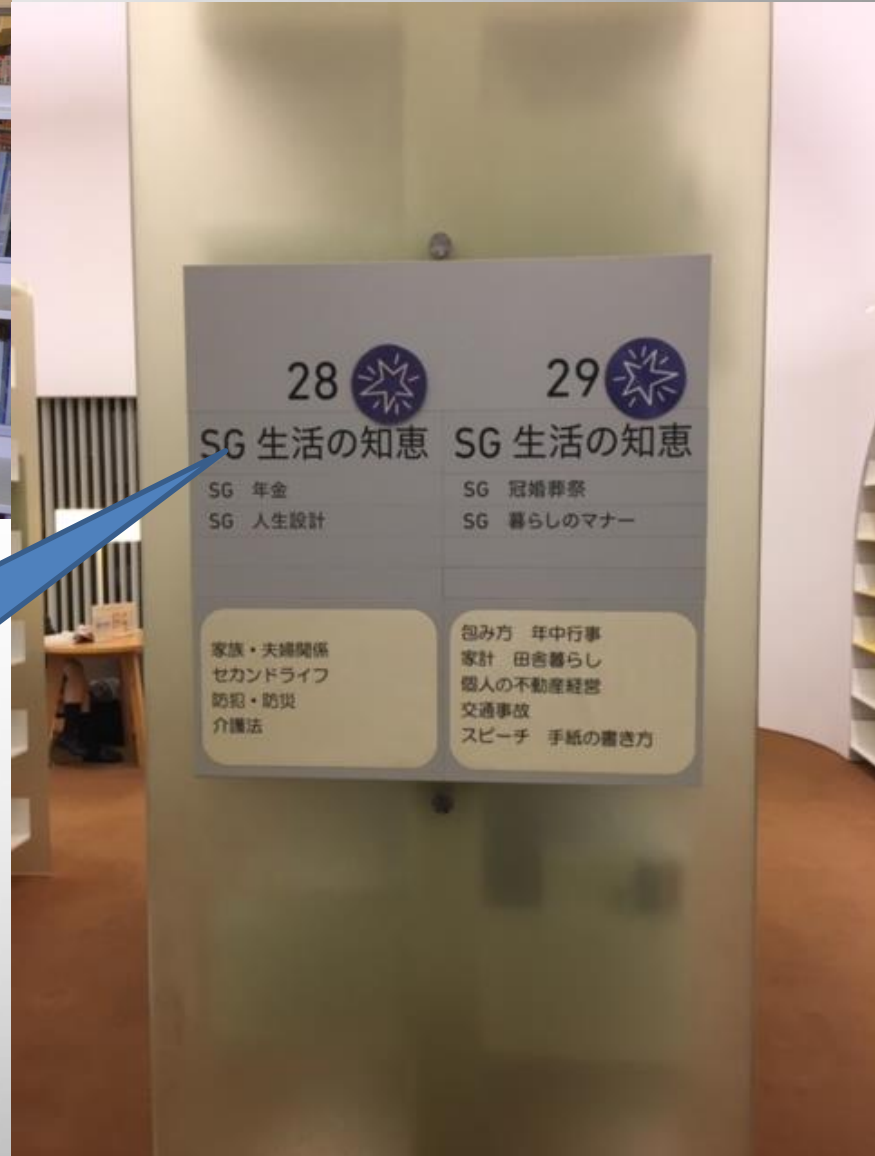


音も匂いも2Fへ

2F こどもライブラリー



2F テーマライブラリー (生活関連系図書)



表記を変えています

1F ギャラリー



講座もコンサート
もやります

1階ギャラリーでのコンサート

(「プレイス・フェスタ2017」開催時)



B1F 閲覧席





B1F レファレンスカウンター

B1F サーチバー

有料データベース、
ナクソス、インターネ
ット検索、武蔵野地
域映像アーカイブシ
ステム⇒(PCで座
席無人管理)



貸出、返却などの自動化

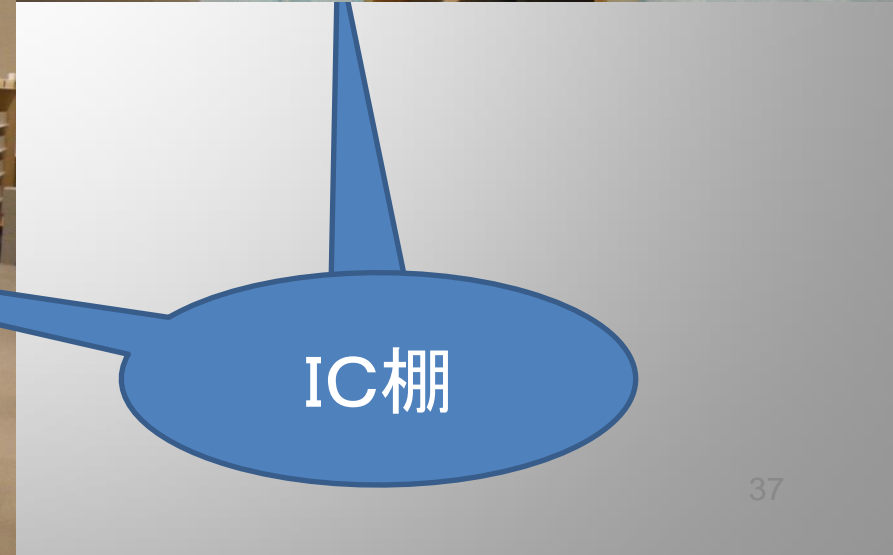
貸出、返却、予約本の引き取りは自動化することにより、カウンター職員の動きが変わってくる。その結果じっくり話を聞くことができる

1F 返却本資料棚



by 日経アーキテクチャ

1F 予約資料コーナー



IC棚

雑誌タイトル数の充実 (600タイトル)

市立図書館としてのプレイス図書館の位置づけ
は地域館(分館)



多数の蔵書は不可能



図書館としての一つの特徴(売り)



雑誌に着目⇒「そこそこ」の専門性、即時性そして
娯楽性

1F マガジンラウンジ



敷居をさらに低く

レファレンス(図書資料を使用した調べ物のお手伝い)のみならず、
図書が介在しなくても市の緩やかな窓口として気兼ねなくさまざまなことが聞ける雰囲気づくりが重要

青少年へのアプローチ

青少年にとって、日常的・継続的に利用できる公共施設（居場所）は意外に少ない。主に地下2階で展開（厳密に言えば図書館ではないが、館内で一番緩いルールを適用）

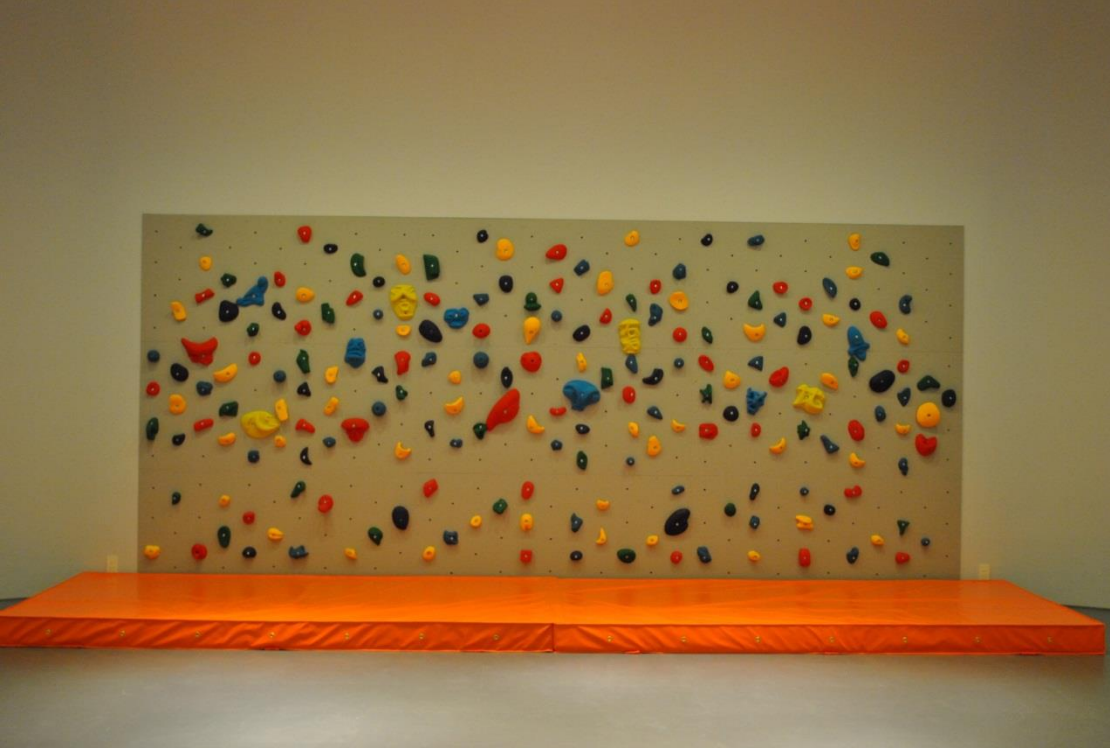


by 日経アーキテクチャ

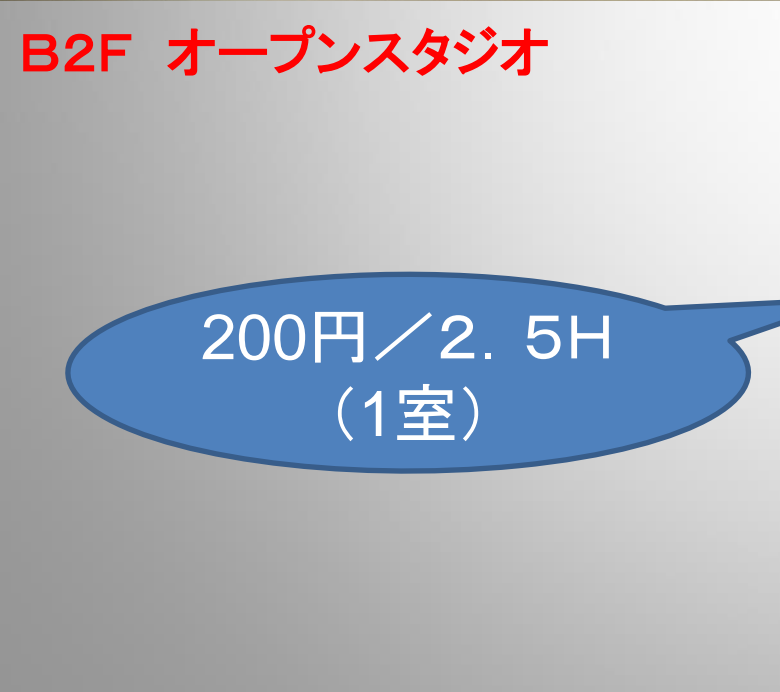
B2F スタジオラウンジ

図書のデリバリーもします。





B2F サウンドスタジオ



200円 / 2.5H
(1室)





350円 / 2. H
(1室)

B2F クラフトスタジオ

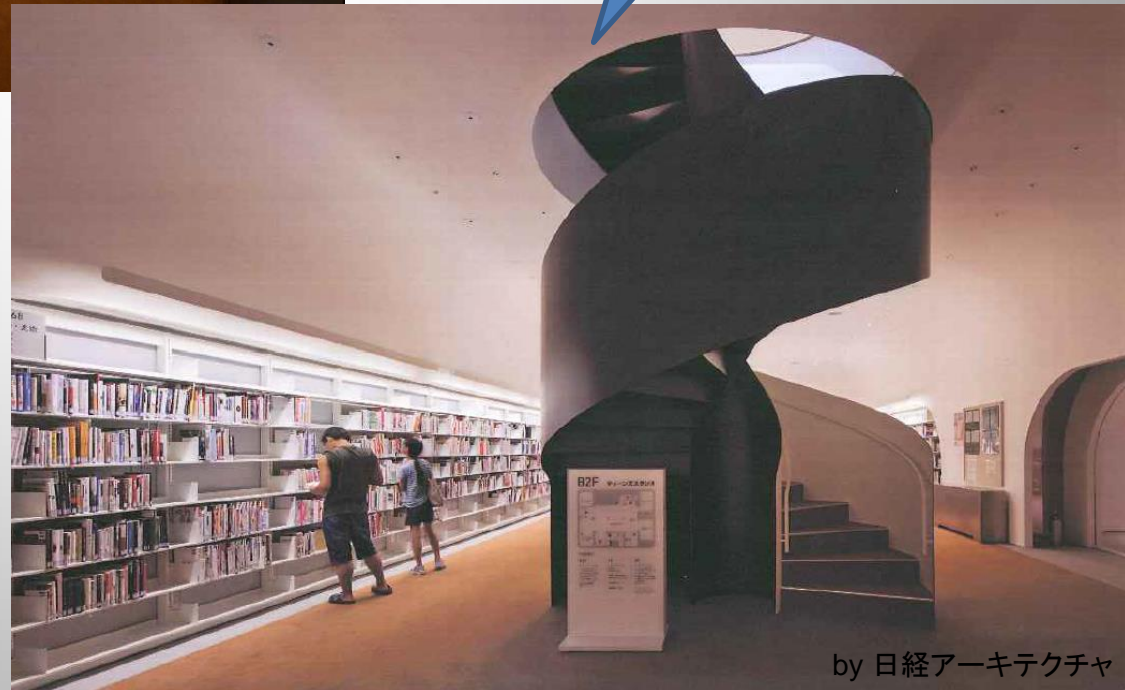
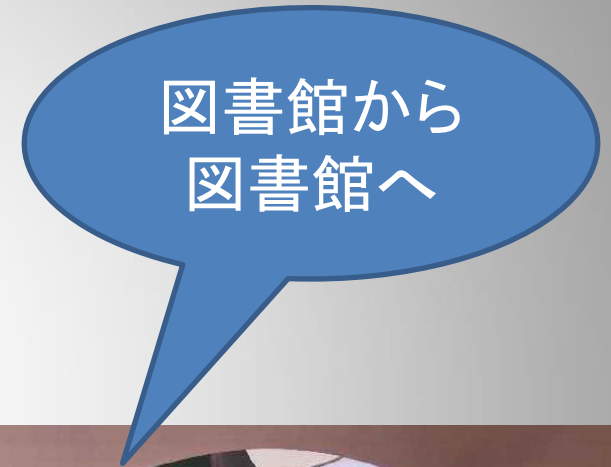
B2F パフォーマンススタジオ

150円 / 2. H
(1室)



B2F

アート&ティーンズライブラリー



by 日経アーキテクチャ

しっかり答える

1F 利用者の声コーナー



利用者の声

利用者の皆様のご意見・ご要望をお聞かせください

1F 掲示スペース

つまり『利用者の役に立つ施設』 『末永く愛される施設』を目指します

- ・シームレスな公共空間

⇒敷居を低く(あまり機能を意識せずふらっと立ち寄りたくなる)

- ・日常生活に密着

⇒日常生活に欠くことのできない(ないと困る)



- ・課題解決(地域、個人)のための支援

⇒地域の一員として頑張ります